

ニラ収穫時の深刈りによる ニラフシダニ(仮称)の防除効果

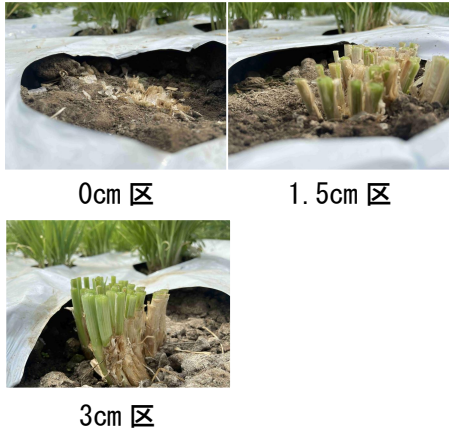


写真 各区の刈り取り位置

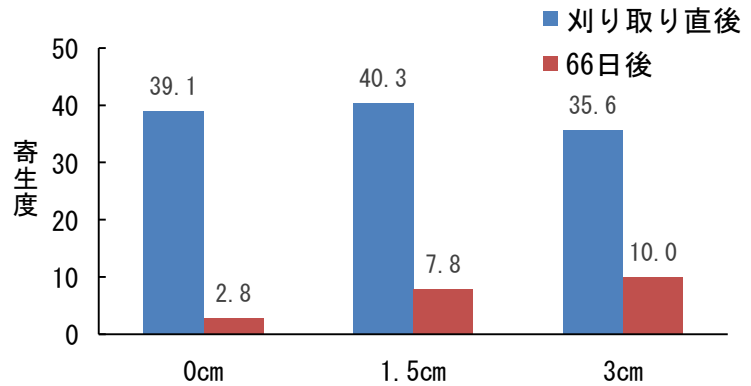


図 刈り取り高さ別の寄生度

注) 寄生の程度をA=0頭、B=1~10頭、C=11~50頭、D=51~250頭、E=251頭~に分けて下式により寄生度を算出した。

$$\text{寄生度} = (B+2C+3D+4E) / 4 \times \text{調査数} \times 100$$

表 刈り取り位置の違いによる防除効果

地際からの 刈り取り高さ	刈り取り直後					被害度	刈り取り66日後					被害度
	無	少	中	多	甚		無	少	中	多	甚	
0cm	322	248	125	79	26	26.2	747	42	10	1	0	2.2
1.5cm	415	196	99	76	14	21.2	623	89	71	16	1	8.8
3cm	506	124	59	97	14	18.4	479	123	138	50	10	18.4

注1) 調査日：刈り取り直後；令和7年12月2日、刈り取り66日後；令和8年2月6日

2) 被害の程度を無(A)=症状なし、少(B)=葉には水疱症状はないが、茎の基部の内側にわずかに水疱あり、中(C)=葉には水疱症状はないが、茎の内側に水疱あり、多(D)=葉に水疱の痕跡がみられる甚(E)=水疱症状を伴う葉の奇形に分けた。

3) 刈り取り直後および66日後の数値は被害程度別のニラの茎数

4) 次式により被害度を算出した。被害度=(B+2C+3D+4E)/4×調査数×100

ニラフシダニ(仮称、以下、フシダニと記す)は、成虫の体長が0.2mmと非常に小さいニラに寄生する害虫です。被害症状は、葉に水疱が生じ、フシダニの密度が高まるとニラが生育不良となり株が小型化することが確認されています。フシダニは新たに発見された害虫であることから、防除技術が確立されていません。そこで、ニラの収穫時の深刈りによるフシダニの防除効果を調査しました。

刈り取り位置の異なる3つの区(地際面から刈り取り位置までの高さ別に、0cm区、1.5cm区、3cm区(写真))を設けました。調査は、高さ別の刈り取り実施時(刈り取り直後)とその66日後(刈り取り位置

は全区共通で0cm)の2回行い、被害度と寄生度を調査しました。

その結果、被害度は0cm区において最も低く、被害程度“無”が大幅に増加しました(表)。また、寄生度も0cm区において、同様の傾向が見られました(図)。

以上のことから、刈り取りの高さが低いほど防除効果が高く、収穫時にできるだけ深刈りすることで、フシダニの被害を軽減できることが明らかになりました。

今後は、本種の発生生態や有効薬剤を明らかにし、引き続き防除体系の確立に取り組んでいきます。

(昆虫担当 吉田百花 TEL088-863-4915)